

5) ワカサギの産卵河川

井出充彦・山中 治

【背景】琵琶湖でのワカサギの産卵は'95年3月に知内川、安曇川、和邇川の下流部で初めて確認されたが、その後の稚魚の分布状況、漁獲状況から湖内での資源の増加が示唆された。

【目的】ワカサギ資源の増加に伴い、産卵場の拡大が予想されるため、'95年に引き続き、'96年も産卵場の確認調査を行った。

【成果概要】1. 調査河川 '95年に調査を行った主要な11河川に加え、大浦川、土川、草津川など15の中小河川(支流を含む)の主に河口から上流2km以内を調査範囲とした。

2. 調査方法 現場で産卵基体(主に河床表層部)を採取し、その場で産着卵の有無を確認した。産着卵密度の目安として以下のように7水準に分類した。0. 産着卵無し その河川における主要な産卵場と思われる地点において、1. 密度が薄く(よく見ないと卵が確認できない程度)、一つの連続した産着卵のある範囲(以下産卵範囲)が狭い(複数の場合は河床に点在している) 2. 密度は高いが(一見して卵の確認ができる程度)、産卵範囲が狭い 3. 明らかに過密と思える状態の場所があるが(例えば一つの礫一面に産着卵が見られる状態)、産卵範囲が狭い 4. 密度は薄い、産卵範囲が広い(例えば河床全面) 5. 密度が高く、産卵範囲が広い。 6. 明らかに過密な場所があり、産卵範囲が広い。

3. 結果 3月中旬に調査した26河川のうち、12河川で確認できた(表1)。しかも、'95年同時期に産着卵の確認された3河川のうち、知内川(水準6)と安曇川(水準4)では、確実に産着卵密度が高くなっていた。なお、'95年は知内川、安曇川がそれぞれ水準5、1であった。

【成果の活用面・留意点】'95年の調査で確認されなかった、塩津大川、姉川、犬上川で新たに産着卵が確認されたことと、知内川、安曇川では産着卵密度が増加したことから、さらに'96年は資源が増加する可能性が高く、他魚種への影響が心配される。

表1 産卵調査結果

調査日	河川名	産卵密度 (水準No.)	水温	底質
96/03/11	大浦川	3	9.2	砂・礫
96/03/11	大浦川支流	5	7.2	泥・砂・礫
96/03/11	八田部川	0	9.5	泥・砂・礫
96/03/11	塩津大川	5	8.4	礫
96/03/11	野田沼水路	0	9.1	泥・砂・礫
96/03/11	余呉川西野放水路	0	10.3	礫
96/03/11	余呉川	0	—	泥・砂・礫
96/03/11	姉川	1	8.0	礫
96/03/11	土川	0	9.0	泥・砂・礫
96/03/12	唐竹川	0	7.7	泥・砂・礫
96/03/12	人通川	1	5.0	泥・砂・礫
96/03/12	石田川	1	4.8	礫
96/03/12	安曇川	4	5.1	礫
96/03/12	青井川	0	8.0	泥・砂・礫
96/03/14	知内川	6	11.0	砂・礫
96/03/13	鴨川	1	8.0	砂・礫
96/03/13	鶺鴒川	6	4.9	砂・礫
96/03/13	八屋戸川	0	10.5	泥・砂・礫
96/03/13	和邇川	1	10.2	砂・礫
96/03/13	天神川	0	10.1	砂・礫
96/03/15	天野川	0	9.0	礫
96/03/15	芹川	0	9.8	礫
96/03/15	宇曾川	0	7.6	泥・礫
96/03/15	愛知川	0	7.8	砂・礫
96/03/15	野洲川	0	8.3	粘土・砂・礫
96/03/18	犬上川	1	9.8	粘土・礫

注) 1. 日野川、家棟川は深いため調査できなかった。

2. 知内川では夜間に、大浦川およびその支流では日中に親魚を確認した。